

次年度の予算編成の時期となりました。各種通知等の内容を、来年度の事業計画に反映していただきたいと思います。

今回は、「3歳児健康診査の視力検査」「コロナ禍における母親支援に関するアンケート調査」の報告等についてです。



長野県PRキャラクター「アルクマ」
©長野県アルクマ

……3歳児健康診査の視力検査について……

3歳児健康診査で強い屈折異常（遠視、近視、乱視）や斜視が見逃された場合、治療開始が遅れ、十分な視力が得られないことがあります。そのため、3歳児健康診査では、ランドルト環による検査が行われています。また、県内には屈折検査機器を導入して視能訓練士や保健師が検査を実施している市町村もあります。

3歳児健康診査の視力検査に関する情報をまとめましたので、業務の参考にしてください。

○公益社団法人日本眼科医会の各マニュアル（令和3年7月公表）

「3歳児健診における視覚検査マニュアル」

https://www.gankaikai.or.jp/school-health/2021_sansaijimanual.pdf

「保健師のための屈折検査導入マニュアル フォトスクリーナーの場合」

https://www.gankaikai.or.jp/school-health/2021_sansaijimanual_screener.pdf



○厚生労働省子ども家庭局母子保健課「令和4年度母子保健対策関係概算要求の概要」（8月31日OnePublicに掲載）

「母子保健対策強化事業【新規】」に「（4）各種健診に必要な備品（屈折検査機器等）の整備」が記載されています。補助額等は示されていません。今後の通知にご注意ください。

○3歳児健康診査における視覚検査に係る調査のお願い

標記調査を9月15日付で依頼していますので、ご協力をお願いします。結果については、後日、情報提供いたします。

現在、当センターで把握しているところでは、屈折検査機器を市町村単独で整備している場合と、周辺市町村（圏域）で整備して健診等に合わせて器械を共有している場合があります。検査は、次のような方法で実施されているようです。

- ①眼科医療機関に屈折検査機器と視能訓練士の派遣を依頼して実施
- ②市町村で屈折検査機器を用意し、視能訓練士を健診時に雇用
- ③市町村で屈折検査機器を用意し、保健師が検査を実施
- ④事前に市町村が指定した眼科医療機関で屈折検査機器を用いた検査を受け、3歳児健康診査を受診

災害時の母子保健対策 9月は防災月間

秋は、台風等による災害が多い季節です。8月の長雨の際も避難所を開設した市町村もあります。厚生労働省では、「災害時妊産婦情報共有マニュアル（保健・医療関係者向け）」及び「妊産婦を守る情報共有マニュアル（一般・避難所運営者向け）」をホームページに掲載しています。支援を行う際の参考としてください。

○災害時妊産婦情報共有マニュアル（保健・医療関係者向け）

<http://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-11900000-Koyoukintoujidoukateikyoku/0000121617.pdf>

○妊産婦を守る情報共有マニュアル（一般・避難所運営者向け）

<http://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-11900000-Koyoukintoujidoukateikyoku/0000121619.pdf>

その他、8月13日のOnePublicをご覧ください。

最近のOnePublicから

8月31日に次のものが掲載されています。

- 母子保健医療対策総合支援事業（令和2年度からの繰越分）の実施について
- 令和3年度（令和2年度からの繰越分）母子保健衛生費の国庫補助について

……コロナ禍における母親支援に関するアンケート調査……

令和3年3月に実施した「コロナ禍における母親支援に関するアンケート調査」ですが、3月に中間報告をさせていただきました。今回、77市町村の結果がまとまりましたので、情報提供します。

I 回答市町村数 77市町村（回答率100%）

II 相談者の状況（図1、図2参照）

62市町村（80.5%）が「妊産婦等（乳幼児の母親や妊娠希望者を含む）から新型コロナウイルス感染症に関する不安を訴える相談」を受けたことが「ある」と回答しています。

うち、50市町村が乳児期の相談を、45市町村が妊娠中の相談を受けていました。

III 相談内容

①産後うつなどの産後メンタルヘルスに関する相談の有無

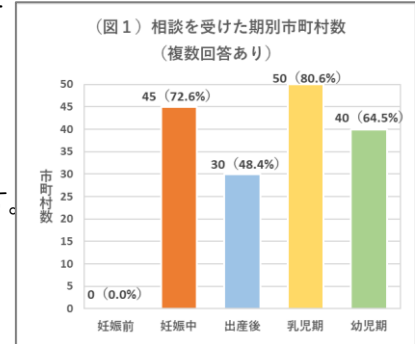
「ある」46市町村 「ない」31市町村

②産後メンタルヘルスの相談件数の変化（保健師の主観）

「増加した」19市町村（24.7%） 4分の1の市町村で増えています。

「前年と変わらない」57市町村

「前年より減少」1町



新型コロナウイルス感染症に関する不安を訴える相談内容

妊娠中：出産に関する内容が多い

- ・里帰り出産ができないことへの不安
- ・産後、予定していた親族の支援が受けられないことへの不安 など

出産後：出産を振り返っての相談が多い

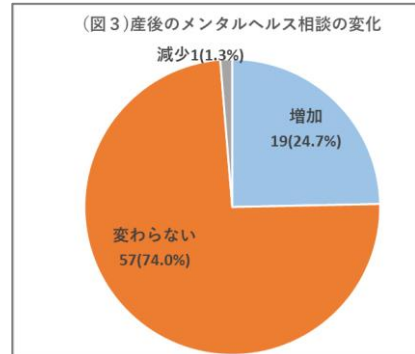
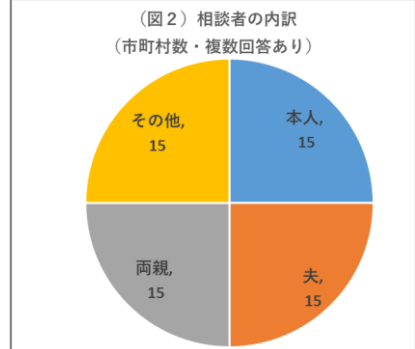
- ・立ち合い分娩ができず、予定と違う出産となった
- ・出産後、面会制限がありせつなかった
- ・親族が手伝いに来られない など

乳児期：感染不安に関する相談が多い

- ・乳児健診、予防接種を受けることで感染しないか心配
- ・感染が心配で外出したくない、できない
- ・新生児訪問をキャンセルしたい など

幼児期：母のメンタルヘルスに関する相談の増加

- ・外出を控え、母にストレスがたまる。
- ・子どもと一緒にいる時間が増えイライラする
- ・夫の在宅ワークがストレス
- ・子どもの成長が心配 など



コロナ禍での母子保健支援で、保健師として気がかりなこと、心配なこと、不安なこと

60市町村が「ある」と回答しています。

母親に関すること

- ・母親同士のつながりの希薄化
- ・具体的に育児手技を身に付ける機会の減少
- ・虐待、母のメンタル面 など

子どもに関すること

- ・体を使って遊ぶことの減少
- ・子ども同士で遊ぶ機会の減少
- ・マスク着用により表情が見られないことによる影響
- ・生活リズムの乱れ など

母子保健事業に関すること

- ・母親との信頼関係の構築
- ・事業と感染防止の両立の難しさ
- ・感染予防を理由にした支援の拒否

「センターだより」について、ご意見・ご感想をお聞かせください。

<連絡先> ©信州母子保健推進センター

県保健・疾病対策課

直通電話 026(235)7141

担当圏域	母子保健推進員	配置場所	連絡先
佐久・上小・長野・北信	小山 佐知恵	保健・疾病対策課	026(235)7141
諏訪・上伊那・飯伊	吉田 恵理	飯田保健福祉事務所	0265(53)0444
木曾・松本・大北	伝田 純子	松本保健福祉事務所	0263(40)1937